

阿波中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎基本を徹底し、主体的に取り組むことができる生徒の育成
- ②思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫
- ③学びを人生や社会に生かそうとする力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長 村岡文英 教頭 板東義明
教諭 福田一博	教務主任 竹原弘人 1年主任 森脇和美
	2年主任 吉本公子
	3年主任・研修主任 森輝代

校長

村岡 文英

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある授業態度で、意欲的に取り組んでいる。与えられた課題もほぼ期限内に出すことができる。 ●学力の二極化が見られる。学習の習慣が身につけていない生徒も多く、小テストや単元テストなどの基礎的な内容のテストでは点が取れるが、広範囲の応用力を試されるテストでは正答率が低い。	・学習内容の定着を図るために復習する時間を確保し、繰り返し学習することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、各教科間で連動させたり生活の中で活かしたりすることができる。 ・計算力や読解力を確かなものにするができる。	①他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行い観点(導入・展開・振り返り・発問・板書など)を決めて参観し、授業力を高める。 ②テストや小テストの振り返りを実施し、どの場面でつまづいているか認識できるようにし、正答率が低い問題は再度挑戦させる。		・教員が相互に授業参観を行うことにより、他の教員の効果的な取組を学ぶことができた。各教員がそれらを取り入れることで、授業力の向上に努めている。 ・問題を精選し、振り返りのテストや小テストを繰り返し実施できた。具体的な到達度を示すことで学習意欲を高めることができた。	・授業では、「読む」「書く」「聞く」「話す」の活動にメリハリを付け、生徒の集中力が高まるよう工夫する。相互の授業参観については継続していく。 ・定期的に振り返りのテストや小テストを実施し、生徒の理解度を高め、基礎・基本となる学力を付けていく。学力の低い生徒へのアプローチについて研究を深める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通じて自分の意見を表現することができたり、他者の意見をしっかりと聞くことができる生徒が多い。また、ペアやグループ学習にも協力的で友達との学び合いや教え合いなども行うことができる。 ●学んだことをまとめたり、根拠を明らかにして説明したりすることができる生徒が少ない。	・文章を根気強く読み、内容を理解することができる。 ・自分の考えを的確にまとめ、相手が理解できるよう、わかりやすく説明したり、発表したりすることができる。 ・話し合い活動等を行う中で、他者の考えや新たな知識を取り入れ、自分の考えをより深めたり、修正したりすることを通して、新しい考え方を表現することができる。	①学んだことをまとめたり、根拠を明らかにして説明したりする時間を授業の中で確保する。 ②授業の中でわからないことをとらえさせ、それを解決できるよう、ペア・グループワークやICT 機器を効果的に取り入れ、双方向での学習活動を行う。 ③学力向上確認プリントなどの活用問題を授業で行う。		・総合的な学習の時間や道徳の時間にペア学習や班活動を行い、話し合いやプレゼンテーションの技能は身につけてきている。しかし、教科の学習においては、文章の読み取りが浅かったり、説明する語句が具体的でなく単調に終わったりすることがある。学んだ知識・技能を実際に活用できる自己表現の機会を増やしていく必要がある。 ・確認プリントの扱いは十分ではなかった。	・ペア学習や班活動で効果的な教え合いができるよう工夫をしたり、スモールティーチャーを育成したりする。また、課題をまとめたり、語彙を増やす活動を取り入れる。 ・ICT の効果的な活用を模索し、自己表現活動により積極的に取り組む。 ・学力向上確認プリントなどを、実力テストや基礎学力テストの前に効果的に活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や毎朝のセミナー学習、読書の準備などの取り組みが早く、集中して取り組むことができ、新しい知識の習得に意欲的な生徒が多い。 ●学習に対し受け身な生徒が多く、自ら課題を見つけて目標を設定し、主体的に学習に取り組める生徒は少ない。 ●難しい問題になったときに、解決していこうという高い意識を持っている生徒が少なく、諦めてしまう姿が見られる。	・家庭学習で、既習事項の確認を主体的に行い、自分の苦手を自覚し、わからないことを理解しようと努力することができる。 ・自分で解決できない課題等に対して、教員や友人の力を借りて解決しようとする事ができる。 ・わからないことに対しても粘り強く考えて取り組むことができる。	①連絡黒板に準備物だけでなく学習内容を書くことにより見通しをもたせる。また、適切な分量の課題を設定し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の定着に繋げる。 ②ふりかえりシートなどを活用して、授業の振り返りをを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。 ③わからないところの質問時間を確保したり、家庭学習へとつなげたりする。		・授業の前後に本時の課題や次時の取組について伝えるなど、授業の見える化を図り、見通しを持って授業を受けることができるようにした。提出物の確認等で、家庭学習の定着を促したが、家庭学習の時間を確保できていない生徒が若干いる。 ・必要に応じて、ワークシートやふりかえりシートを効果的に活用することができた。 ・質問時間を確保するとともに、SWPBSを意識して生徒の支援を行った。	・毎時間、学習内容と達成目標を明示し、見通しを持って授業に取り組めるようにする。また、適切な分量の課題を出すことにより、家庭と連携して学習が進められるようにする。 ・適切なタイミングで、ワークシートやふりかえりシートを活用するよう工夫する。 ・質問を受け付ける時間を設定したり、具体的な解説が入ったプリントを作成したりする。

令和5年度 学力向上ロードマップ



